

女性医師の立場から

先生、外科医なのにどうやって子供を育てているのですか？

もっともっと女性外科医が増えることを期待したいと思います。

「先生、外科医なのにどうやって子供を育てているのですか？」と最近、女子医学生や若い女性医師によく聞かれます。

自分が医師となったのは、今から20年以上前で、まだまだ女性外科医が少ない時代でした。でも自分の腕で治せる外科医に大変魅力を感じました。医学部卒業時、何科を選択するか、家族間（特に父と）で大変もめました。「人前で平気で寝るのか？」「結婚はどうするんだ？」親として大変心配だったと思いますが、その気持ちを裏切って外科の道に進みました。当初は消化器外科を専門に研修しましたが、その時、高齢の患者様

に言われた一言「女性の研修医を外して欲しい」が今でも忘れられません。それだけ当時外科は男性中心の世界だったのだと思います。4年経過したところで妊娠がわかり1度は完全に仕事を辞めました。しかし、子育てのみの生活は、時間を持って余し、逆にストレスでした。そんな時に、現在日本呼吸器外科学会理事長の千田雅之教授より仕事の誘いを受けました。卒後6年、呼吸器外科医としての一歩が始まりました。現在3人の子供がいますが、子育ては今振り返るとあっという間でした。最初の勤務先では、手術が縦3列で行われることもあり、夜10時

以降帰ることも度々ありました。しかし周りの先生方のご指導のおかげで自分も少しずつスキルが付き、手術そのものが楽しくなりました。その後、遅ればせながら基礎講座に出席し医学博士も取得できました。

最初の質問ですが、私の答えは「何とかなる」です。

最近、患者様に「主治医が先生で良かった。男の先生だと怖くて話せない事も気軽に話せた。」と言われることが増え

ました。嬉しいのはもちろん、自分が外科を志した20年前と時代は変わったと感じました。呼吸器外科は他の外科より女性に向いていると言われ、自分もその通りだと思っています。夜中臨時手術で呼ばれることもほとんどなく、生活も安定しています。私を育ててくださった諸先生方に感謝すると同時に、これからももっともっと女性外科医が増えることを期待したいと思います。

保坂 智子

所属：労働者健康安全機構 東北労災病院 呼吸器外科
卒業大学：秋田大学 1993年卒

経歴：

1993年 仙台市医療センター 仙台オープン病院（初期研修医）
1996年 東北大学医学部第二外科
1999年 仙台厚生病院呼吸器外科
2004年 東北大学加齢医学研究所呼吸器外科
2008年 東北労災病院呼吸器外科
2009年 東北大学医学部大学院修了（医学博士）

趣味：音楽鑑賞（特にクラシック）、ピアノ

好きな言葉：冬来たりなば春遠からじ

